

協会の活動

発行：一般社団法人栃木県老人保健施設協会広報委員会

令和元年度 社員総会にあわせ 特別講演会が開催される

- 期日：令和元年5月31日(金)
- 会場：ホテル東日本宇都宮（宇都宮市）



令和元年5月31日(金)ホテル東日本宇都宮にて、特別委員会による「第1回特別講演会」が開催され、39施設129名の参加がありました。

山梨県老人保健施設協議会 会長／医療法人社団 青虎会（セイコウカイ）介護老人保健施設はまなす 施設長 福田六花先生をお迎えし、「アクティブな老人介護」

と題する講演会が行われました。福田先生は聖マリアンナ医科大学卒業後、外科医師・音楽活動・マラソンのイベントの開催など多岐にわたって活動されており、永六輔氏からはシンガー・ランニング・ドクターと名前をつけてもらったと話されていました。

福田先生は平成14年豊かな自然に魅せられて河口湖に移住され、介護老人保健施設はまなすの施設長に就任されました。その後、高齢者福祉の厳しさを知り、高齢者、苦悩する家族の役に立ちたいと考えられ、高齢者福祉をライフワークとする決意をされたと話されていました。

講演会は日本の高齢者の人口の推移、日本の医療費の現状、介護保険財政等を踏まえて、「アクティブな老人介護」をするために施設職員が何に注意するべきか、具体的に何をすべきかなどを、ユーモアを交えてわかりやすく教えてくださいました。

また、介護老人保健施設はまなすの施設職員が、「縁あって関わらせていただくのであれば、残り少ない時間に最高のプレゼントを贈ろう。高齢者の夢や希望をかなえてあげたい。なぜならば今の日本があるのは高齢者が頑張ってきたからだ！」といった福田先生お考えの元を実施してきた数々の事例を紹介してくださいました。事例の内容は身体拘束廃止、薬を減らすための取組、頻回なトイレ誘導、夜間入浴の取組、四季折々の行事の実施、外出支援など多岐にわたっていました。施設職員が何に注意するべきか、具体的に何をすべきかはわかりやすく、事例すべてが素晴らしく、「アクティブな老人介護」と評するにふさわしい有意義な講演会でした。

